

(財)交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成23年7月23日から30日まで台湾の学生の剣道修練度向上と日本理解を一層深めるために高校生・大学生20名を福岡・熊本に招聘しました。

招聘メンバーの多くは初めての訪日でしたが、玉竜旗（全国高校生剣道大会）の見学及び企業チームからの剣道指導、高校生と交流試合の他、民泊など短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ本場の剣道や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した20名のうち、4名の訪日報告書をここにご紹介致します。

台湾剣道訪日団

台中市私立明道高校1年
邱煒智

7月23日

今日は飛行機に乗って日本へ行く日です。初めて飛行機に乗る私は、とても興奮していました。福岡空港に到着してからも、好奇心いっぱいの私はあちこち歩いて回りました。集合してバスに乗り込むとき、私たちを迎えに来てくれたNさんと会いました。Nさんは、今回の日程を手配してくださった交流協会東京本部の職員です。また、九州剣道連盟副会長である角正武・範士も出迎えに来てくれていました。

バスに乗ってその日宿泊する「ヒルトン福岡シーホークホテル」へ向かいました。そこはとても高級なホテルでした。今日は移動で疲れただけで、訪日の一日目が終了しました。

7月24日

朝から仲間とお揃いのシャツに着替えて、日本で最初の訪問先へと出かけました。私たちが向かったのは小倉城でした。小倉城は、非常に古い日本の建築物です。外国では大部分がこのような

建築物をお城と呼びます。しかし台湾では、このような古い建築物を目にするのは非常に困難なことです。しかも日本は高度な発展を遂げた国なのに、このように古いものがよく保存されています。

私たちは次に、日本独特の文化である「茶道」を体験しました。台湾人が長い時間正座するのが苦手なことを知って、先方が特別に椅子席と、比較的広い場所を私たちのために準備してくださったことに感激しました。「茶道」は作法と礼節を重んじる一つの文化です。「茶道」を体験した私は、日本人がこの文化を通して、いかにして気持ちを落ち着かせるのかを学びました。（追記：お茶菓子はとても甘く、私たちが飲んだ「薄茶」はとても苦かったです！）こうして午前の日程が終了しました。



午後はいのちのたび博物館と門司港へ行きました。博物館の展示品は非常に豊富で、動物の標本をたくさん見たほか、福岡の地理についても理解を深めることができました。

次に門司港へ行き、かつて税関として使われていた建築物（現在は小さな展示館として、参観者に開放されている）を見学し、そこで関連の展示物をたくさん見ました。

夜は交流協会が歓迎会を開いてくれました。

7月25日

朝起きると、何とも言えぬ興奮を覚えました。なぜなら私たちは、実業団の強豪である西日本シティ銀行の剣道部に稽古をつけてもらい、技術指導を受けることになっていたからです。過去の記録によると、この剣道部はかつて九州の実業団剣道大会において、男子団体戦で三連覇した偉業を持つそうです。このため私たちはすべての精神を集中させ、練習に臨みました。西日本シティ銀行剣道部の皆さんによる技術指導のおかげで、私は「間合いを取ることの重要性」を学びました。私たちが高校生だからといって手を抜くことなく稽古をつけてくださった西日本シティ銀行の皆様に、この場をお借りして感謝致します。私たちは練習後、福岡市役所へ向かい、アジアの国際都市を目指す福岡市の抱負と展望を理解しました。台湾の地方自治体も学習するに値することだと思いました。

その後、私たちは生まれて初めて「博多人形」の絵付けを体験しました。作業は緻密さを要求されるもので、芸術的センスのない私にとっては非常に難しく、博多人形には似ても似つかないものが出来上がってしまいました。作品を完成させた私たちは、隣の土産店へ行きました。そこで売られている博多人形と自分の作品を比べてみると、私たちの作品がどれだけ特別で、特色のある出来栄であるかが分かりました。

博多人形の絵付けを終えて、私たちは近くにある櫛田神社を訪れました。そこで私は、日本の神社ではどのように参拝するかを理解しました。私はそこでおみくじを引きました。引いたのは「小吉」でした！このおみくじを引いたからでしょうか。私の日本訪問は、極めて順調なものでした。

夜、博多駅に行きました。この駅は各方面から電車が乗り入れています。私たちは博多駅ビルの屋上展望台へ行き、その景色を眺めました。細かいところまでよく観察している劉家安団長が、通訳のN₁さんに、東京には高いビルがたくさんあるのに、なぜ福岡には東京のような高層ビルがないのか、という質問をしました。観察力のない私は、それを聞いて初めてそのことに気が付きました。N₁さんの説明を聞いて、その理由に納得しました。福岡市では、福岡空港が市内の中心に近い場所にあるので、市内の建築物を低くしなければならないそうです。夜景を楽しんで、この日の日程が終了しました。

7月26日

朝から剣道着に着替えて、この訪日で最も重要な訪問先へと向かいました。私たちは、日本の高校生の剣道大会で最も大きな大会である、玉竜旗大会の会場へ向かいました。会場へ到着するや否や、私たちはその雰囲気飲み込まれました。スムーズな試合進行、気迫十分な試合、そして多くの団体による参加、多数の観客……。このとき私は、台湾の剣道にはまだ学ばなければならないところがたくさんあると感じました。女子の部の32強の試合を見たあと、私たちは交流協会が手配してくれた日台青少年剣道交流の会場へと向かいました。そこでは福岡県立光陵高校との剣道交流が手配されていました。ウォーミングアップが終わると、すぐに試合開始です。10人総当たり戦の3番目に配置された私は、とても緊張しました。自分の番が回ってきて、日本の生徒と剣を交えた

とき、その大きな殺気と勝とうとする意欲を、私はすぐに感じ取ることができました。試合では負けてしまいましたが、私は勝ち試合よりもっと多くのことを学びました。贈り物を交換して、光陵高校の生徒たちと写真を撮るときになって、試合が終われば、誰もが楽しい気持ちで友達になりがたっているのだということを知りました。

交流試合の後、私たちは再び玉竜旗大会の会場へ戻り、女子の部の準々決勝、準決勝、決勝を見ました。その内容は、台湾の試合とは大きくかけ離れたものでした。日本では決勝戦になると、会場の中央に決勝のコートを作るので、周囲の観衆が試合の様子を完全に見ることが出来るのです。台湾では、館内放送を聞かないと、どのコートで決勝が行われているか分かりません。日本はとてもうまく試合を実施しているとしか言えません。

試合の見学が終了すると、私たちはホテルに戻ってシャワーを浴び、お揃いのシャツに着替えてから、日本人がこよなく愛する野球場—ヤフードームへ行きました。一步場内に足を踏み入れるだけで、日本人がどれだけ野球を愛しているかを知ることが出来ました。私たちが見たのは、福岡ソフトバンクホークス対東北楽天ゴールデンイーグルスの試合でした。ヤフードームはソフトバンクのファンで埋め尽くされていました。とても良

い試合で、最後は3対2でホームチームである福岡ソフトバンクが勝利しました。こうして素晴らしい一日が終わりました。

7月27日

まず私たちが訪れたのは宮崎兄弟資料館でした。解説を聞いて、私たちは孫文が日本で多くの支援を受けていたことを知りました。当時孫文が残した直筆の文字や、当時のまま保存されている建築物を見ました。当時の歴史を理解した後、私たちは日本刀の鍛錬所に行き、そこで日本刀を製作するところを見ました。解説によると、鞘、柄、文様などを含めると、一本の日本刀を完成させるために3カ月の歳月を要するそうです。

その後、私たちは日本文化を知るための重要な場所である、日本の民家にお邪魔しました。集落の公民館に到着すると、熱意あるご主人たちが私たちの到来を待っていました。私たちがお世話になる家のご主人は、とても可愛い老夫婦でした。

老夫婦のご自宅にお邪魔すると、現地の農村で食べるというおやつが準備されていました。中でも一番おいしかったのは、あんこを包んだ餅でした。

おやつを食べると、私たちは近所の神社を訪れました。樹齢数百年という神木がありました。付



近を散策し、日本の農家の生活環境を理解しました。日本の空気は本当においしいと思いました。自宅に戻ると、また特別な食べ物をいただきました。それは「流しそうめん」というもので、流れる水に麺を流し、水の勢いで下のほうに滑らせ、下流で待ち受け、麺をすくって食べるというものでした。とても特別な体験でした。食後、ご主人の二人の可愛いお孫さんである花伶ちゃん、藍来ちゃんと一緒に、バドミントンやサッカーをしました。少し汗を流したあと、ご主人は私たちを近くの温泉に連れていってくれました。

温泉につかったあと、うちに戻って夕食を食べました。そして私たちはずっとおしゃべりをしました。日本人はとても親切だと思いました。

7月28日

この日は朝から農村の生活を体験しました。起床した私たちを待ち受けていたのは、人生初の牛の餌やりでした。牛は私たちを見るととてもうれしそうにしていました。牛たちには、私たちが豪華な食事を持ってきたウエイターのように見えたのでしょうか。その後、私たちは山を登り、農作業の簡単な手伝いをしました。それから昼ごはんとの戦いとなりました。私はサラダ作りを担当しました。まずはジャガイモをつぶして、ハム、マヨ



ネーズ、卵を入れて……。これらを混ぜてから、それぞれのお皿に盛りつければ出来上がりです。食後の休み時間、ご主人は私たちを山の上の牧草地帯に連れていってくれました。

時間が過ぎるのは早いもので、私たちの農村体験の生活も終わりに近づきました。初日に訪れた公民館に集まり、小さなお別れ会が行われました。1泊2日という短い時間でしたが、心温まるおもてなしを受けたことに心から感謝しました。たった1泊2日でしたが、彼らと別れるのはとても名残惜しいと思いました。本当に。

お別れ会が終わると、次の目的地へと向かいました。一つの温泉旅館で、私たちは今回の日本訪問の旅が順調であることを祝いました。夜のバーベキューでは、Nさんが私たちのために花火を準備してくれました。また、引率の鄭崇宏先生の誕生日を祝うケーキが登場し、私たちの日本訪問が滞りなく成功するよう祈りました。

7月29日

この日は、日本で過ごす最後の一日と言ってもよい日でした。私たちはまず阿蘇山へ向かいました。阿蘇山は活火山です。私たちはまずロープウェイに乗り、火口付近に近づきました。そこでの眺めを楽しみながら、おしゃべりをしたり記念撮影をしたりしました。

そして大津高校へ行き、合同稽古を行ないました。スペースはそれほど広くありませんでしたが、熱い思いと剣士たちの友好の気持ちがたくさん詰まっていた。少し練習をしてから、彼らと小さな試合を行いました。勝負に関係なく、どれもとても良い経験となりました。練習後、簡単にシャワーを浴びました。大津高校は、私たちのためにお菓子を用意してくれました。たった30分間という短い時間でしたが、私たちは互いをより理解することが出来ました。このときのご招待に感謝します。いつかまた再会できるのを楽しみ



にしています。

最後の剣道の練習を終えて、私たちは福岡市のキャナルシティ博多へ移動しました。少し買い物をする時間があったので、私は小さなフィギュアを買いました。小さなフィギュアでしたが、必要な模様や小さなパーツもついていました。日本人の専門性の高さに脱帽しました。

夜、台北経済文化大阪事務所福岡支所の台湾人外交官たちと食事をし、この日本の旅が正式に幕を閉じました。

訪日剣道交流の感想

台北市立士林高級商業職業学校3年
鍾宜如

2011.7.23

今日は訪日剣道交流の1日目です。午後、誰もが喜びの表情を浮かべて台湾桃園国際空港に集合し、日本の福岡空港へ向けて出発しました。長いフライトの末、福岡空港に到着しました。空港に到着したとき、なんと小さな空港かと思いました。しかし、小さいながらも秩序があり、入国審査の職員さえとても礼儀正しい様子でした。私たちは皆、写真と指紋を照合しなければなりません。その日は旅客がとても多かったので、入国審査にとっても長い時間を要しました。しかし、誰もが期待とうれしさを隠せずいました。空港を出ると、すでにあたりは暗くなっていました。そのままヒ

ルトン福岡シーホークホテルへ向かい、これから日程をこなすための準備として体を休めました。

2日目

朝早くにホテルを出発して小倉城へ向かいました。付近には日本庭園、八坂神社、松本清張記念館などがありました。そこは、お城の荘厳な雰囲気だけでなく、優雅で整った気質が漂っていました。小さなお城とはいえ、天守内の展示品はどれも見応えがありました。一階には城下町を俯瞰した模型が展示されており、ボタンを押すとかつての城下町の日が再現される仕組みになっていました。ライトと音声で一日の変化を表現しており、とても興味深く、何度も見たいと思うほどでした。私はこのような模型の展示が大好きです。もう一つ興味深かったのは、大名が乗るお輿です。ほかと違うのは、参観者が自由に乗ることができる点でした。お輿に乗って、その移動する様子を体感することが出来ます。城内には小さな売店もあり、たくさんの土産が売られていました。小倉城がこの場所の主力な観光資源であることを見てとることが出来ました。

小倉城の参観が終わったあと、私たちは付近の日本庭園で日本の茶道を体験しました。それから私たちは小倉城のそばにある八坂神社に行きました。皆、争うようにしてお守りやおみくじを買っていました。

日本に行ったからには、当然ながらたくさん食べなくてははいけません。日本での食事は、私たちの胃袋を大きく刺激するものばかりでした。昼食後、私たちは元気を取り戻し、また次の訪問地へ移動しました。私たちが訪れたのは北九州市立いのちのたび博物館でした。そこには、私たちを感嘆させる多くの展示がありました。私は多くの思い出をもって、この場所を後にしました。続いて行った門司港は、売られている記念品や商品の多くが、バナナと関係するものでした。ガイドの



N₁さんの説明によると、かつて日本人は台湾産バナナが大好きで、しかもそれはお金持ちしか口にすることが出来ないものだったそうです。門司港を離れるころには、すでに夕方になっていました。夜は訪日剣道交流団のために開かれた歓迎会に参加しました。私たちは愉快的な気持ちでホテルに戻り、2日目の日程が終了しました。

3日目

私たちは西日本シティ銀行と剣道交流を行いました。交流を通して、私たちは多くの経験と技術を学びました。私が驚いたのは、日本人の謙虚さとその態度です。非常に忍耐強く私たちを指導してくれました。そして私は、日本人の友好的な態度を強く感じる事が出来ました。続いて博多人形の絵付けを体験しました。ここではたくさんの記念写真を撮りました。その後、櫛田神社に行きました。神社は、日本以外ではほとんど見かけることのない場所です。多くの日本人がここにきて参拝していました。神社からは荘厳で優雅な印象を受けました。夜、私たちは博多駅のビル屋上展望台を散策しました。展望台から見える景色は非常に美しく、広々としていました。特に夜の景色は煌めいていました。当然ながら、そこでも何枚か記念写真を撮りました。午前中に西日本シティ銀行と剣道交流をしたので、皆も少し疲れている



ようでした。ホテルに戻ると早々と就寝し、3日目の日程を終えたのでした。

4日目

私たちは玉竜旗大会を見学しました。ここには日本の高校生剣士が数多く集まってきました。会場では多くの試合を見ました。私は日本の剣道の技術と繊細さに脱帽しました。私たちは光陵高校と剣道交流を行いました。技術や実力の面では私たちの上を行く相手でしたが、私が非常に印象に残ったのは、彼らの謙虚な態度でした。剣道の能力、態度だけでなく、多くの点で私たちが学習するに値すると思えました。

続いて私たちは、とても行きたいと思っていたヤフードームに行きました。ここは日本のプロ野球チーム、福岡ソフトバンクホークスのホーム球場です。日本でも、台湾と同じく野球は国民的なスポーツです。福岡だけでなく九州全体で、ソフトバンクホークスのポスターや広告を各地で見かけました。私たちは、地域意識を強く感じました。ホテルからヤフードームに移動するには、途中で「ホークスタウン」を通り抜けます。外見はデパートのようですが、デパートほど格式ばったところではなく、カジュアルな雰囲気の商店街です。売り場の隣がドームになっていて、互いにつながっ



ているのです。おそらくホークスファンの多くが、試合の前後にここで買い物をするのでしょう。当然ながらソフトバンクホークスの関連商品もたくさん売られていました。ヤフードームは、台湾でもよく知られています。なぜなら王貞治氏が長年、このヤフードームで監督をしていたからです。ヤフードームに来たら、野球を観戦するだけでなく、付近で関連のグッズを買うこともできます。

ドームでの試合から、私は日本人の野球に対する情熱を感じる事が出来ました。台湾のプロ野球と違って、観客席はほとんど満席でした。特別だったのは、ヤフードームの屋根が開閉式だということです。試合終了後は花火を鑑賞することが出来たのも、忘れられない思い出となりました。私たちはその後、博多ラーメンを食べに行きました。正直に言うと、ラーメンのスープはとてもしょっぱかったです。食後、もう遅い時間だったので、私たちはホテルに戻り、日本での4日目の日程を終えました。

5日目

私たちは宮崎兄弟資料館を見学に行きました。また、松永日本刀鍛錬所へ行きました。ここの日本人は、これまで出会った日本人と同様、非常に友好的でした。これらの場所を訪問し終えた私たちは、その後、とても人情味あふれる民家に一晚お世話になりました。民家のおばあさんはとても親切で、たくさんの食べ物を準備してくれたので、



私たちもたくさん食べざるを得ませんでした。このおばあさんは、私たちにとっても友好的で、私たちを家族のように扱ってくれました。私たちはまた、話にしか聞いたことがなかった「流しそうめん」を食べました。これはとても特別な体験でした。一生に一度は食べてみるべきです。言語は通じなくても、私たちはおばあさんの気持ちを十分に感じる事が出来ました。畳の部屋に寝るのも、とても気持ちの良いものでした。日本語はわからなくても、おばあさんと一緒にテレビを見てみると、家族になったような気持ちになりました。

6日目

私たちはおばあさんと一緒に昼食を作りました。その後、おばあさんは私たちを美しい景色の見えるところに連れて行ってくれました。私たちはおばあさんと記念撮影をしました。少し昼寝すると、民家を離れる準備をする時間でした。とても名残惜しい気持ちになりました。このとき私は、人と人の感情というものは、たった一秒だけでも非常に貴重なものなのだと思います。そして、努力して日本語を勉強し、またここに来ておばあさんと話をしたいという気持ちが生まれました。後ろ髪をひかれる思いで、私たちは民家を離れました。

私たちは続いて次のホテルに向かいました。そ

こで皆でバーベキューを楽しみ、鄭先生の誕生日を祝いました。交流協会のNさんが、私たちのためにわざわざ花火を準備し、日本の花火の雰囲気味あわせてくれました。最後にみんなで一緒に浴衣に着替えて温泉に行きました。こうして5日目の日程が終了しました。

7日目

朝早くから私たちは阿蘇山の火口を見に行きました。ロープウェイに乗らなければ、阿蘇山の火口へ近づくことはできません。その日は視界も良好で、阿蘇の火口がきれいに見えました。そこからは強い硫黄の匂いが漂ってきました。特別だと思ったのは、硫黄の塊を売る屋台が並んでいたことです。また火口付近には、阿蘇山火口という文字や今日の日付が書かれた看板があり、観光客が記念写真を撮ることが出来るようになっていました。地面には足跡のマークがありました。これは、ここに立てば最も良い角度で写真が撮れることを意味しており、そこから日本人の親切心を見てとることが出来ました。火口を出発して、「山賊旅路」というレストランで昼食を食べたあと、大津高校と剣道の練習試合をしました。試合後は、大津高校側が用意してくれたお菓子を皆で食べました。互いに言葉も通じないのに向いあって座っていましたが、どの顔にも満面の笑顔が浮かんでいました。なぜならこうした喜びは、国境を越えるからです。

台日剣道交流の日程も終わりに近づきました。続いて行われた送別会では、名残惜しい気持ちがさらに高まりました。日本でのごすべて、日本で出会った人々、事柄、物など、すべてが私にとっては非日常的な意義を持っていました。7日間の九州の旅。いろんなところへ行き、数えきれないほどの写真を撮り、日本料理や温泉を楽しみました。九州は日本の南部にある島であり、日本にある4つの大きな島の一つです。東京や大阪ほど賑やか



ではありませんが、伝統文化を持った古い都市です。今回の剣道交流の旅から、私は多くのことを学びました。これらの経験は、すべて一生の思い出とする価値のあるものです。

今回のこのような交流事業に参加する機会を私に与えてくださった方々に、大変感謝しています。特に団長、コーチ、一行の仲間たち、そして今回の剣道交流に関わった関係者の方々に感謝します。特に、この7日間の日程を丹念に企画して下さったNさんに感謝します。本当に楽しく、面白い日々でした。これらの経験は、旅行社が企画する通常のツアーでは体験できないものです。またこのような機会があれば、必ず参加したいと思っています。

——これらの思い出は、いま思い返しても、やはりとても美しいものです。

2011年度台湾高校生訪日剣士団の感想

苗栗市国立苗栗高校2年
潘季靖

7月23日夜、私たちは福岡空港に到着しました。人から福岡はとても暑いところだと聞いていたので、空港から出たらきっと暑くてたまらないのだろうと心配していました。しかし結果は、ど



こが暑いというのでしょうか？とても爽やかで心地よい天気でした。「九州は日本の南部に位置するけれど、台湾よりはきっとずっと涼しいのだろう」—私は心の中でそう思いました。日本に来るのは2回目でした。それでも、ホテルへ向かうバスの中で外の景色を眺めながら、私はとても新鮮な気分になりました。

今回はわずか8日間の日程です。日本に留学に行く人のように、一度行ったら1年も2年も帰らない、というわけではありません。しかし私は、この8日間で十分深く日本の文化や風情を理解したと思っています。例えば小倉城の付近で日本の茶道を体験しました。亭主が私たちのためにお茶

を点ててくれるのを静かに眺めました。外の暑さのため浮ついていた気分も、茶碗の中の抹茶と一緒に、静かに落ち着いていくようでした。それから掛け軸などの小物を見て、茶室のそばにあった日本庭園も見学しました。私は思わず、このように美しく、かつ静かな環境で生活できる日本人を羨ましく思いました。もしかしたらこれも、日本が世界第一の長寿国であり続けることができる原因の1つなのかもしれません。

最も印象に残っているのは7月26日に見学した玉竜旗大会のことです。私は以前、漫画の中で、玉竜旗大会の様子を描いたシーンを見たことがありました。それ以来、自分の目でこの試合を見てみたいと思っていました。試合会場に入らないうちから、私は会場の雰囲気飲み込まれそうになり、そして自分が緊張し、また興奮してくるのを感じました。日本全国から集まった女子高校生たちが、この場で剣道の試合をしているのだと思うと、頭がクラクラしてきました。私は見学席からあたりを見回しました。ああ、本当に漫画の中に描かれていたのと同じです！そばで試合を見ながら、私は信じられない気持ちになりました。なんということでしょう。私と同じ高校生、しかも皆女子生徒です。しかし、私と彼女たちの実力の差といったら、天と地ほどありました。彼女たちは誰もが目に見えないほど速いスピードで剣を振り、素早い動きで相手を倒していました。私はそばで次々に行われる試合を見ながら、彼女たちはなんとすごいのだろうと思いました。交流試合のときも、ただの練習試合だというのに、彼女たちは全力で私たちに向かってきました。私は負けましたが、このような貴重な機会が持てたことを嬉しく思いました。

私はまた、小倉城で劉家安団長が宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島での決闘の様子を語ってくれたことが印象に残っています。私は以前、宮本武蔵を紹介したDVDを見たことがあったので、

宮本武蔵という人物について全く知らないわけではありませんでした。しかし、劉団長が話してくれた決闘の詳細や戦略についての解釈は、DVDよりも面白いものでした。私たちは興味津々といった様子で劉団長の話に耳を傾けました。

私は宮本武蔵が剣術に優れていただけでなく、頭脳を駆使して戦略を編み出していたということ（その中にはだまし討ちのような部分もありますが）が素晴らしいと思っています。しかし、敵と対峙する場合は、彼のような冷静に対応できる精神が必要なのでしょう。

また、最も印象に残っていることといえば、やはり26日と27日の阿蘇でのホームステイです。まず、Sおばあさんが小さなトラックを運転して、私たちを彼女のうちまで連れていってくれました。私はずっと、トラックに乗る感覚を味わってみたい、トラックから阿蘇の田園風景を見てみたいと思っていました。「素敵！ついにトラックに乗ることが出来た！私たちが泊まる家は、ここからそんなに遠くはないだろうな」—私がそんなことを考えているうちに、おばあさんの家に到着しました。私たちが泊まった民家は、最初に集合した公民館からそう離れておらず、歩いても移動できる距離でした。Sおばあさんは、私たちのためにわざわざトラックで迎えに来てくれたのです。

私たちはSおばあさんの菜園を見ながら歩き、おばあさんのお宅にお邪魔しました。お宅に入ると、おばあさんがまず私たちに荷物を下ろすように言いました。そして家族を紹介し、それからトイレや台所の場所などを教えてくれました。それから私たちを裏庭に案内して、流しそうめんをごちそうしてくれました。流しそうめんはとてもおいしかったし、とても面白かったです。おばあさんがまず、竹で作ったコースの上流に塊になったそうめんを流しました。それがゆっくりと自分のところに流れてきたら、それをお箸ですくって自分のお皿に入れ、つゆを付けて食べるのです。冷



たいそうめんと、ちょっと甘いつゆの味は最高でした。私たちは、とてもおいしいと思いながらも、あまり多くは食べませんでした。なぜなら夕食が入らないと思ったからです。

そうめんを食べ終わったところに、ちょうどおばあさんの息子のお嫁さんが帰ってきました。お嫁さんが、私たちを公共浴場に連れていってくれました。日本の浴場では、全裸になって他人と一緒に風呂に入らなければならないことを私は知っていました。最初は少し照れていましたが、どうせここは日本なのだし、皆そうしているのだから、と思って衣服を脱ぎ、そして浴場に入りました。なぜだかわかりませんが、中にいたのはおばあさんばかりでした。おばあさんたちは、私たちが台湾人だと知ると、誰もが嬉しそうに私たちに日本語で話しかけてきました。私たちは、おばあさんたちが何を言っているのかほとんどわかりませんでした。その気持ちは言葉を介さなくても、私の心に深く伝わってきました。



日本に行く人は多くても、日本に剣道のために行く人は、世界中を探してもそう多くはないでしょう。今回の日本訪問は、私にとって永遠に忘れられない思い出となりました。

訪日剣士団感想

新竹市国立交通大学1年
鄭姿筠

テレビや輸入品を見て憧れるだけではなく、実際に日本の地をこの足で踏むということは、私にとって初めてのことでした。日本、それは私がずっと憧れていた国でした。

初めての海外ではありませんでしたが、日本に行くのは初めてのことでした。日本に行くことは、私にとって他の国に行くこととは絶対的に違う意義を持っていました。ことあるごとに日本が好きだと言いながら、これまで一度も日本に行ったことがなかった私は、初めてのことに大変興奮していました。

日本に到着したその日は、すでに夜も更けて涼しく過ごしやすい時間帯になっていました。それでも私は目を大きくして、私の持てる観察力と想像力を駆使して、目に映る一切を記憶に焼付けようとしていました。台湾とは左右が違う運転席、車のナンバープレートはひらがなと数字の組み合わせでした。小型車をたくさん見かけました。セブンイレブンもありましたが、台湾とは少し違っていました。このような小さなことさえ、私にとっては「初めて」のことで、しかも「自ら」の目で見識を広げるとあって、とても面白かったです。こうした観察によってもたらされる喜びは、私に無限の満足感を与えてくれました。

1日目は剣道の試合がなく、純粹に観光を楽しむ日となっていたので、私の気持ちもとても晴れやかでした。私たちがまず向かったのは小倉城で

す。私は城郭を見学できるとあって、とてもうれしく思っていました。私は日本の建築物が大好きで、特に日本独特の建築物である天守閣に対して、とても興味を持っていました。小倉城はそれほど大きなお城ではないのかもしれませんが、城郭ファンとしては十分に美しく、その美しさは驚くほどのものでした。内部の展示も大変素晴らしかったです。展望台からは屋根瓦の彫刻が見えました。おそらく特殊な守護獣の一種なのではないかと思います。

続く茶道体験も、私がとても期待していたものでした。茶道は一種の、複雑且つ礼節を重んじる芸術です。茶道を学ぶ人からは、軽々しく扱えないような、一種の優雅な気質を感じる事が出来ます。主催側が気を使ってくださり、台湾人は正座をする習慣がないことを考慮し、今回の茶道体験は椅子席でできるように手配してくれていました。伝統的な茶道とは違いますが、確かに椅子だとリラックスできました。

私の認識と最も大きく違っていたのは「お茶」そのものでした。茶道で客人に出すお茶が、これほど濃く、しっかりした味のするお茶だとは知りませんでした。それだけではありません。お茶がこんなに熱いものだとは思っていませんでした。今後また日本に行くことがあれば、もっと伝統的な茶道を体験してみたいと思いました。茶道のきまりごとを厭う人もいるかもしれませんが、茶道はこうしたきまりごとがあるからこそ、精緻な芸術と言っても恥ずかしくない文化であると私は思っています。

茶道体験が終わると、時間が少しあったので、近くの八坂神社に行きました。私は神社が大好きです。以前、台湾で日本統治時代に残された神社の遺跡を見学したことがありますが、それだけでも大変感動しました。日本ではどんな場所でも神社を目にすることが出来ました。私は、日本人はなんと幸せなのだろうと思わずにはられません

でした。いつでもこのように美しい建築物を見ることが出来るからです。私たちが漫画やアニメ、小説などでしか見たことがない巫女さんも、神社ではよく見かけることが出来ました。神社は、その建築物が大変魅力的なだけでなく、静かで神秘的な雰囲気も、私を引き付ける原因の1つです。

その日の夕食は、この上なく豪華なものでした。驚くほどの量の刺身、それからしゃぶしゃぶ、散らし寿司、そのほかのおいしい料理の数々。私たちはお腹いっぱい食べました。さすがに魚を食べることで有名な日本です。刺身はとてもおいしく、新鮮で臭みはありませんでした。私はもともとあまり刺身が好きではなかったのですが、それでもその日は刺身をたくさん食べました。

翌朝、私たちは西日本シティ銀行と剣道の練習をしました。先生方はとても親切で、私たちの不正確な動作を修正してくれました。練習のときに使用した体育館には、とても清潔で便利なシャワールームがあり、とても素晴らしかったです。

私たちは午後、博多人形の絵付けを体験しました。独創的で面白い作品が次々に完成しました。私たちは仲間たちの才能に脱帽しました。博多人形も彼らの手によって、その特色をより増していました。

絵付けが終わると、私たちは付近にある櫛田神社を参観しました。櫛田神社はそれほど大きな神社ではありませんが、博多の代表的な神社です。神社には博多祇園山笠で使う飾り山が展示されていました。それは壮観で、とても美しいもので、じっと見入ってしまうほどでした。なんと、飾り山は両面に飾り付けがされていました。様式は異なりますが、同じくらい素晴らしく、驚きに舌を巻くほどの作品でした。

夜は博多駅へ向かいました。ビル屋上展望台から、夜景を見ました。面白いことに、この屋上にも神社（鉄道神社）がありました。小さな神社ではありましたが、とても可愛く、特色がありまし

た。夜に神社を訪れるのも、また違った楽しみがありました。

26日、玉竜旗大会見学の日がやってきました。玉竜旗大会の会場はとても大きく、その規模は台湾で行われる剣道の大会とは比べものにならないほど大きなものでした。私たちは女子の試合を見学しました。そこで日本と台湾の剣道の違いをいくつか発見しました。

台湾では白い剣道着などほとんど見かけません。しかし日本では、半分近くの女子選手が白い剣道着を着ていました。私たちは、これには驚きました。しかし私たちがもっと驚くことは、ほかにもありました。会場で見かける女子選手は、ほとんどが短髪だったのです。とてもサッパリしていて、男性の髪型に近い短髪でした。一方、男子生徒はというと、なんと丸坊主でした。日本人から見れば何ともないかもしれませんが、しかし、いつもテレビ、漫画、アニメ、小説、又はその他の本などから日本についての情報を取り入れている私には、ある種の固定観念がありました。それは、日本の高校生はとても外見を気にしている、ということです。ですから私は、これから会場で見える高校生たちは、きっとアイドルのような髪型をしているのだろう、と思い込んでいました。スポーツをしている生徒は、非常にサッパリした髪型をしているとは、思ってもいないことでした。私の認識と、実際の状況について、どちらが良いとか悪いとか言うわけではありません。ただ、私がもともと考えていた状況との差が大きかったので、私にとってはかなり大きな衝撃でした。

このほか、どの団体も統一した「ユニフォーム」を着ていました。つまり、同じ団体の選手は、一様に同じ剣道着、手ぬぐい、防具を持っていたのです。これも台湾ではあまり目にしない光景です。

試合はとても見応えがありました。特に決勝戦では、血が沸き立つような興奮を覚えました。会

場全体にも緊迫した雰囲気は漂っていましたが、最終的に、これまで5連覇の記録を持つ筑紫台高校が、6連覇を達成しました。これは本当に素晴らしいことです。もし彼女たちのレベルに達しようと思うなら、私はもっと努力をしなければなりません。

当初、女子の決勝戦を見た後は、合同稽古の様子を見学する予定でした。しかし、私たちが宿泊しているヒルトン福岡シーホークホテルのそばにヤフードームがあり、このような良いところに泊まっているのに野球を観戦しないのはもったいない、ということで予定を変更し、野球を見に行くことになりました。これはとても貴重な体験でした。台湾にいても、私は小さいころに1度だけしか野球の試合を見たことがありません。しかも、テレビ中継を見るのではないのです。試合場の雰囲気はとてもよく、見応えのある試合でした。最後はホームチームであるソフトバンクが勝利を収めました。

翌日、私たちは松永日本刀鍛錬所に行きました。そこで日本刀がとても高価なものであることを知りました。

午後、私たちはグループごとにその日に宿泊する民家を訪れました。私たちのグループが泊まることになったのは、おじいさんとおばあさん、そして2人の可愛い姉妹のいるお宅でした。民家に到着すると、私は興奮する気持ちを抑えることが出来ませんでした。その民家は、日本の伝統的な家屋の外観を持つだけでなく、その内装にも日本色が色濃く出ていました。このような家屋が日本では普通なのかどうか分かりませんが、畳と木の板の組み合わせが私は本当に気に入りました。このほか、このうちにはとても素敵な調度品があり、家全体から心が温かくなるような快適さを感じました。

この日、私たちは日本で有名な温泉文化を体験しました。しかし、私たちにとってこれはある種

の挑戦です。人前で裸になることは、台湾人にとってそれほど容易なことではないからです。私たちにはそのような習慣がありません。台北市の北投にも、このような温泉地があるものの、このようなことはすぐに慣れるというものでもありません。

私たちが宿泊した民家のおばあさんは、とても料理が上手でした。私たちは毎食、おいしい料理を堪能しました。おじいさんは、とても上品なご老人で、お二人は大変かくしゃくとして健康そうに見えました。二人の姉妹は、ぴょんぴょん飛び跳ねていて、元気いっぱいでした。

おじいさんは28日朝、私たちを近所の国造神社と古墳群を見に連れていってくれました。古墳というのは、巨大な石室になっていて、その一番奥の深いところに石棺が安置されているのだそうです。中に入っても良いそうですが、私たちは入りませんでした。もし機会があれば、またここに来て、必ずや中に入ってみようと思います。

神社からうちに戻って、私たちはコロッケを作ったり、小豆を植えたりしました。またとても面白い、流しそうめんというものも食べました。流しそうめんはとても面白く、そしておいしかったです。以前、テレビで見たことがありましたが、自分がそれを体験するという面白さは、本当に言葉では表現できないほどです。

時間はあっという間に過ぎていき、午後には民家の家族とお別れをしないではいけませんでした。たった1日の短い時間でしたが、この1日は私にとって忘れがたい思い出となりました。

その日の夜、私たちはバーベキューをしたり、たくさんの花火をしたりしました。とても賑やかで、楽しく遊びました。子供のころの思い出が、私たちの心の中によみがえりました。

帰国の前日、広々とした草原を見ながら、私たちは阿蘇の火口に行きました。ロープウェイに乗って山の景色を楽しみました。私は初めて火口

を見ました。火口には色のついた美しい水がたまっていました。火口の岩肌の模様までくっきり見え、私をととても引き付けました。

午後、大津高校で剣道の練習をしました。その後、福岡に戻って30分程度の買い物をしたあと、私たちは送別会の会場へ向かいました。

日本に滞在したのはわずか1週間程度の時間で

したが、日本好きの私はついに、初めて日本の文化の氷山の一角を体験することが出来ました。この日本訪問は、私に多くの感動を与えてくれました。そして、もっと日本のことを理解したいという気持ちを刺激しました。私の日本への情熱は、今後もずっと燃え続けることと思います。